



マンサク：春一番に咲くマンサクは雪の下に埋もれて越冬します。雪の重みに耐えるためかマンサクはしなやかな枝を持ち、雪道を歩くかんじきなどに利用されてきました。プラスチックを多用する現代社会で忘れられた、自然と人の生活が近かったころの知恵です。 井上記

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2024年1月20日現在）

第12期（登録期間：2021年4月1日～2024年3月31日）の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計375名です。自然環境部会154名、温暖化・エネルギー部会125名、ごみ部会97名、広報委員会37名が登録し活動されています。

群馬県環境情報サイトのURLが変わりました 2023/10/1～



<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、
<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/501458.html>

県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。
<http://www.gccca.jp/volunteer/>

目次

- P2 第13期環境アドバイザー登録募集について
環境政策課
- P3 環境に関するアンケート調査実施
副代表 角田和男
- P4 さらなる発展を
自然環境部会 田中和夫
誰でもできる温暖化対策
ごみ部会 山田一朗
- P5 風車改修作業 温暖化・エネルギー部会 西村良子
石切り場跡の凝灰岩を観察しよう 太田市 西村豊
- P6 利根川の水～上流に住む私たち
子どもエコクラブ はじまるキッズ 梅山さやか
- P7 環境フォーラム2023
広報委員 小峯幸子、酒井義明
- P8 編集後記
広報委員 井上金治

第13期環境アドバイザー(2024.4.1~2027.3.31)の登録募集について

群馬県 環境森林部 環境政策課 環境政策係

年が明け、いよいよ寒さが厳しい時期となりました。みなさまには健やかにお過ごしのことと思います。さて、この4月から第13期(2024.4.1~2027.3.31)が始まりますが、今後、登録募集を行いますので、引き続き登録・活動をお願いいたします。なお、前回と登録の方法が若干異なりますので、ご案内いたします。

※みなさまには、後日改めて募集案内をメールまたは郵送いたします。

◆募集・登録の流れ

- ・自動更新はせず、再登録が必要となります。次の応募方法にて登録申請をお願いいたします。

方法1 登録フォームにより申請

次のQRコードまたはURLから登録フォームへアクセスし、必要事項を記入して送信してください。

※募集開始に先立ち、特別に先行受付を行いますので、ご応募お待ちしております。



QRコード

<https://forms.office.com/r/fcq8XcGJWg>

URL

登録フォームにアクセスし、「今すぐ開始」をクリック。

氏名など必要事項を入力。

「送信」をクリックし、完了!

方法2 応募チラシの登録用紙により申請

別途送付する応募チラシの登録用紙に必要事項を記入・切り取りの上、郵送等により事務局へ提出願います。



応募チラシと登録用紙

◆第13期群馬県環境アドバイザー連絡協議会の運営予定について

- ・4月時点の登録者を対象に、地区ごとに説明会を開催する予定です。(幹事の選出)
- ・その後、総会を開催して第13期の連絡協議会を立ち上げ、活動に入ります。
- ・第13期連絡協議会の体制が整うまで、暫定的に第12期連絡協議会の役員が運営を継続いたします。

『環境に関するアンケート調査』実施 ～今後の活動に反映～

副代表 角田和男

「第16回環境フォーラムぬまた」（令和5年6月25日(日)）において、午前中2時間を利用し『環境に関するアンケート調査』（質問7項目）を行い、65人（男性：14人、女性：51人）から回答をいただきました。年代別回答者は10～30代：11人（17%）、40～60代：35人（54%）、70代～：19人（29%）

【主な質問の回答結果】

質問4. 身の回りで、どのような地球温暖化の影響を感じていますか。（複数回答可）

《回答》 「気温の上昇：51人」「桜の開花や紅葉時期の変化：36人」「降雪量の減少：34人」「気温の寒暖差」「熱中症など健康障害：29人」「シカやイノシシなどの生息域拡大」「季節感の変化」など。

質問6. 環境省が令和4年10月に立ち上げた「新しい国民運動（デコ活）」をご存じですか。

《回答》 「内容まで知っている：5人」「デコ活という言葉は知っている：19人」「知らない：41人」

質問7. 令和3年度に沼田市民が1人1日当たり排出したごみの量はどのくらいだと思いますか。

《回答》 「約800グラム：23人」「約1100グラム：15人」「500グラム：7人」
「わからない：20人」



【アンケート調査から分かったこと】

全調査結果は割愛しますが、質問3では『沼田市が2030年度までに削減する温室効果ガス目標値（%）はどのくらいか』をたずねたところ、35人（54%）が「聞いたことがない」「分からない」と答えました。

以下、繰り返しになりますが、質問4の『地球温暖化の影響』については、「気温の上昇」をはじめ身近な事象をあげられました。質問6の新しい国民運動『デコ活』については、41人（63%）が「知らない」と答えました。質問7の『沼田市民が1人1日に排出するごみの量はどのくらいか』について、「わからない」と20人（31%）が答えました。

アンケート調査結果から、環境に関する情報が市民皆さまに行き渡っていない面があることを知りました。



ともすると、組織内に伝えるべき情報が留まっていることも分かりました。どのような方法で迅速に情報をお伝えするのか、課題として残りました。

今後よりいっそう環境問題に1人でも多くの皆さまに目を向けていただけるよう、行政並びに市内15の環境団体が構成する「ぬまた環境ネット」と連携しながら、取り組んでまいりたいと思います。

なお、「デコ活」については、市民活動センター情報紙（市内全戸回覧）や、イベントなどで周知しました。

さらなる発展を

自然環境部会 田中和夫

第10期の2015年から自然環境部会長を務めてまいりましたが、今季限りで下りさせていただきます。現在の部会制度は2001年に設けられたようで、自然環境部会は2009年まで飯塚紘一氏、2015年までは宮崎亮二氏が部会長を務められその後私が引継ぎ8年になりました。訳あって昨年秋に車を手放したので、会の主要な活動である「高山村共有林作業」には事実上参加できなくなりました。部会登録者は9月時点で148人ですが隔月開催の例会の参加者も少なく活動が停滞気味なのは私の力不足です。新しい部会長さんには新しい発想で会を盛り上げていただきたいと思います。

誰でもできる温暖化対策

ごみ部会 山田一朗

最近では気候危機とも言われる気候変動は、地球上の生命にとって深刻な脅威となっています。一方で私たちが日々生み出すごみは、この気候変動をさらに深刻なものとしています。ごみは、二酸化炭素（CO2）やメタン（CH4）などの温室効果ガスの主要な発生源の一つです。この温室効果ガスは地球の大気を温暖化させ、気候変動を引き起こしています。

地球の表面は大気を通過した太陽の光によって温まり、地表の熱は赤外線として宇宙空間に放出されます。温室効果ガスには赤外線を吸収・放出する性質があり、地表から出てゆく熱を吸収して大気を温めます。この働きが温室効果です。大気中の温室効果ガスが増えると、地表を温める働きが強くなって地表付近の温度が上昇します。温室効果が無ければ地球の平均温度はマイナス19度になるとも言われています。温室効果ガスは、地球の温度を生き物が暮らしやすい状態に保つ役割を果たしています。しかし、ごみや化石燃料の燃焼により大量の二酸化炭素が排出され、これが大気中の二酸化炭素濃度を増加させています。この温室効果ガスが地球を覆うと、太陽の熱が閉じ込められて地球温暖化と気候変動が引き起こされます。

ごみの処理方法を改善することで、温室効果ガスの排出を大幅に削減することが可能です。例えば有機性ごみの堆肥化やバイオガス化により、メタンの排出を抑制し二酸化炭素の排出を減らすことができます。3Rの内、リデュースやリユースにより新たな製品の製造に必要なエネルギーを削減し、それに伴う温室効果ガスの排出を抑えることができます。またリサイクルは、次の2点で温室効果ガスの排出を抑えることができます。①燃焼や埋め立てによる温室効果ガスが発生しない。②リサイクルによる製品製造は、原料からの製品製造に比べエネルギー消費量と温室効果ガスの排出量が少ない。以上のように、ごみの処理・削減として3Rを推進することは、温暖化対策と密接に関連し、誰にでもできる温暖化対策と言えるのではないのでしょうか。（私事ですが、個人的事情により、今限りでごみ部会長を辞任致します。4期11年に渡り大変お世話になりました。ありがとうございました。）

生ごみのたい肥化でエコ生活

た	くさんの生ごみを発酵処理
い	きものを育み生物多様性を維持
ひ	りょう化で元気な野菜

風車改修作業～ワイルドライフガーデンでの地域環境学習事業に協力

温暖化・エネルギー部会 西村良子

温暖化・エネルギー部会では、12月3日（日）ミニ風車の改修作業（サボニウス型の補助風車の取付）を行いました。お天気にも恵まれ、風も無く、風車にとっては残念でしたが、作業は順調に進みました。部品にウェットティッシュ容器の再利用など工夫が施されています。

地域環境学習事業「太陽の力と森林の再生」に協力しました。ソーラークッカーで、お味噌汁やサツマイモ煮などをつくりました。素手で持てないほど熱々の焼き芋もできました。太陽エネルギー力のすごさを自然の恵みと美味しさとともに実感しました。生ゴミや落葉の堆肥化、その過程を目の当たりに見ることができました。45ℓのごみ袋満杯の落葉3袋を直径30cm位の鉢に水をかけながら踏み固めました。カブトムシの幼虫が住める堆肥になるのを待ちます。自然の循環、森林の再生を学び、一端を少しでも実践できた思いです。

キノコリウムをいただき、かわいい「きのこ」が出てくるのが楽しみです。また、家の落葉でも堆肥化をやってみます。次回は、風があって風車の稼働発電状況が見たいです。ありがとうございました。



地域環境学習事業（石切り場跡の凝灰岩を観察しよう）の報告

太田市 西村豊

太田市の東毛青少年自然の家付近には、大規模な石切り場跡が存在します。この場所では、直方体に切り出された凝灰岩が「藪塚石」として販売されていました。約70年前までは、これらの石材は、かまど、線路の敷石、家の土台などに広く利用されていました。しかし、コンクリート等新たな建材が普及するにつれ、利用者が減少し、やがては石切りが行われなくなりました。八王子丘陵には今でも多くの石切り場跡が残っており、当時は非常に人気のある石材であったことがわかります。今回の事業では、「ぐんま地質・岩石研究会」の協力で以下のテーマで観察や実習が行われ好評を博しました。

- ① 石切り場の証拠を見つけよう。
 - ② この場所でどのようにして石を掘り進めたのかを考えよう。
 - ③ 崖から25メートル離れて、崖の高さを測ってみよう。
 - ④ 藪塚石がどのような石かを観察しよう。
 - ⑤ 石切り場跡の平面図に手を加え、完成度を高めよう。
- また、石切り場で拾った石をハンマーで小さく加工し、未完成だった太田地域岩石標本セットを完成させる体験も行いました。



利根川学習会 「利根川の水 ～上流に住む私たち～」

こどもエコクラブ はじまるキッズ 梅山さやか
私の出身は千葉県の東京湾沿いの埋立地です。千葉の水道水（利根川の下流）を飲んで育った私は、初めて前橋市の水道を飲んだ、臭いも少なく美味しく冷たい水が蛇口から出てくることに感動したときのことを今でも



覚えています。最近の帰省では、海に遊びに行くと海岸の水位が上がったような印象もありますし、砂浜では、5mmより細かくなってしまったプラスチックゴミが砂にたくさん混ざっています。こんなに細かくなってしまったプラスチックはゴミ拾いできません。ということで、利根川の上流に住んでいる皆さんに、利根川の素晴らしさと大切さを知ってもらいたい、という気持ちで今回の学習会（地域環境学習推進事業）を企画しました。

日時：11月25日（土）

場所：利根川河川敷（グリーンドーム近く）

ぐんま男女共同参画センター

概要：関東地図からみた利根川、

水の採水とCOD測定、

台所から出る排水と、排水に気を付けたときのCODの比較（米のとぎ汁、油汚れ、牛乳）、

石ころの学習、利根川での遊び、ごみ拾いとプラスチックごみの話

当日は、子ども11名、大人11名が参加、天気も良く気持ちの良い河川敷で、中島啓治さんが石ころの説明してくれました。



「この石は何？」

と子どもたちが次々と石を持って質問をしていました。河川敷では、魚をとったり、小石を投げてピョンピョン飛ばす「水切り」大会もしました。このような川との触れ合いができることは、コンクリートで囲われた川しか見たことのなかった私には、川をいつくしむ大切な経験だと思います。

また、西村豊さんは水質の測り方を教えてくれ、前橋の利根川の水質がきれいなことを知りました。そして講義場所までは皆で、ゴミ拾いをしながら歩きました。

参加者には、「利根川の水も自然も、上流からきれいなまま海につなげていけるように」、という気持ちになってもらえればいいなと思います。



環境フォーラム 2023

～美しい群馬の自然を次の世代へ～

広報委員 小峯幸子、酒井義明

令和5年11月18日(土) 10:00～15:00 群馬県庁にて“環境フォーラム 2023”が開催されました。同日庁内にて“フランス祭り”も行われており、環境アドバイザーの方々の他、多くの県民の方々に参加していただくことができました。

今回は、環境政策課と共に実行委員会を設けて準備され、フォーラムは、口頭発表6件、ポスターセッション20件、バルーンアート・缶バッチづくりと、子供から大人まで楽しめる充実した内容で午前、午後の2部構成で行われました。



写真1 缶バッチづくり
を楽しむ子供たち

【午前の部】

藤岡工業高校	「藤工 SDGs プログラム」の取り組み
上州ぐんま ESD 実践研究会	地域循環共生圏を志向した農作業を通じた地域連携活動
のりのり学会	公共交通利用は脱炭素社会への近道！

【午後の部】

動く環境教室	子どもと歩もう環境問題
生きものたちの庭ガーデンクラブ	生きものたちの庭の紹介と親子環境教室
新田環境みらいの会	新田湧水群と周辺の絶滅危惧種の保全活動

午前・午後の口頭発表の後には、発表者をパネリストとして参加者全体で意見交換会が行われました。



写真2 発表に対して活発な意見
交換が行われました

午前の意見交換会では、各発表から“環境活動を学びにつなげる”“フィールドワークで地域とつながる”“社会課題を生活につなげる”というキーワードから“持続可能なこれからの環境活動”について意見を出し合いました。社会からの多様なニーズをマッチングすることによりwinwinな関係を構築するとともに、地域の資源を生かす。そして“身の丈に合った活動”をすることがポイント。環境活動を続けるには、すそ野を広げることが大切。環境アドバイザー一人ひとりがワタクシゴトとして“今できる一歩”を踏み出すことが未来の選択肢を広げることになると感じました。

午後の意見交換会では、パネリストの皆様にご環境活動を始められたきっかけや“今できる一歩”をうかがい、地域の足元から、若い人だけでなく多くの方々に向けて活動を披露していきましょう！と発信をしていただきました。また参加者から、地域や隣家への気遣いに関する質問など、個々の活動についての具体的な意見が聞かれました。今回のような環境アドバイザーの集まりにおいてお互いの活動や課題を共有するとともに、環境政策課や連絡協議会にご協力いただきながら、皆さんで環境活動を推進していけたらと思います。

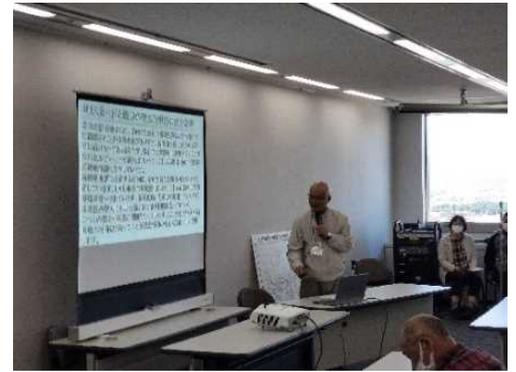


写真 3 口頭発表のようす



写真 4 ポスターに興味津々

ポスターセッションでは、参加者の方々が自分のペースで興味のあるポスターを見て回ります。ポスター発表者は参加者に声掛けをしながらポスター内容を説明したり、お互いの活動について情報交換をしたり、終始和やかな雰囲気でした。また、ポスターセッションの中央では、バルーンアートと缶バッチづくりを行い、子供たちにも楽しく環境活動にふれてもらうことができました。



編集後記 +

国際紛争に加え、地震や飛行機事故のニュースが続き不安な年明けになりました。そのような中ですが環境問題も一刻の猶予もない状態にあります。特に、私たちは大気中の二酸化炭素の急激な増加に注目する必要があります。驚くべきことに、産業化前は 278ppm だった大気中の二酸化炭素が 2022 年には 417ppm になってしまいました。昨年夏の異常高温は今後常態化することが予想されます。長い地球の歴史では二酸化炭素の大幅な増加はありましたが、非常に長い年月を経て緩やかに変化しました。このため生物が進化して気温の変化に適応することができました。しかし、人間活動によって起こされた変化はあまりにも急激で、生物が適応する時間はないかもしれません。このため人も含めて生物の大量絶滅が現実化する可能性もあります。このような中で私たちにできることは少ないかもしれませんが、微力でも環境問題に取り組むことが大切かと思えます。

グリーンニュース 9 5 号には群馬県の各地で行われた環境アドバイザーの活動を掲載しました。私たちの活動はささやかですが、活動の輪が広がり大きな力になることを期待したいと思います。グリーンニュースは皆様の活動や環境問題に関するご意見などの投稿をお待ちしております。 編集委員 井上記

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年 4 回発行します。各号のレイアウトは 3 月、6 月、9 月、12 月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目 1 番 1 号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp